

**授業概要**

歴史的背景を踏まえ、古代から近代における日本の様々な思想が、どのようにして生まれ、発展していったのかを講義する。その際、仏教、儒教、キリスト教の思想についての解説を加え、これらの外来思想が、日本においていかに取り込まれ、変容したのかを、文献を通じて読み解いていく。日本人の考え方の基層にある価値観、死生観、人間観等を知り、日本思想の特色を理解することにより、現代社会における諸問題の原因、解決方法を探る手がかりとして欲しい。

**授業計画**

第1回	ガイダンス
第2回	古代の世界観：『古事記』
第3回	仏教の思想
第4回	古代の仏教：最澄と空海
第5回	中世の仏教1：法然と親鸞
第6回	中世の仏教2：日蓮
第7回	中世の仏教3：道元
第8回	儒教の思想
第9回	近世の儒教：伊藤仁斎、荻生徂徠
第10回	近世の国学：本居宣長
第11回	近代の啓蒙主義：福沢諭吉
第12回	キリスト教の思想
第13回	近代のキリスト教：新渡戸稲造・内村鑑三
第14回	近代の個人主義：夏目漱石
第15回	近代の倫理学：和辻哲郎
第16回	筆記試験

**到達目標**

仏教、儒教、キリストの思想について理解する。  
日本思想における外来思想の受容様態を理解する。  
思想を歴史的に捉える姿勢を身につける。

**履修上の注意**

10分以上の遅刻は欠席として扱い、遅刻3回で欠席1回とみなす。  
予備知識は不要だが、意欲的に授業に参加することを期待する。

**予習復習**

予習：次回の授業で使用するプリントをあらかじめ読んでおく。  
復習：プリントやノートを再度読み直す。参考図書を読み、知識を深めるようにする。

**評価方法**

筆記試験（記述式）60%、授業の最後に配布するリアクションペーパーの記述内容40%として評価する。  
出席日数が3分の2に満たない場合は、受験資格を与えない。

**テキスト**

特定の教科書は使用せず、毎回、プリントを配布する。